



←なつかしい匂いに誘われて見上げるとキンモクセイが咲いていた。そういえばトイレの消臭剤にキンモクセイが少なくなったような気がするが違うだろうか。



→テレビの取材があった。テレビ東京の「アド街ック天国」だそう。

キンモクセイの香りが漂ってくる。秋も深まってきた。

矢切の渡しでは、あいかわらず三匹のおっさんたちが寄り集まって世間話をしてる。

「それにしてもラスベガスの事件、ひどいよねえ。やっぱりヤッさんも銃を留意してたの？」

月曜日、矢切の渡しへ着くと、いきなり舟頭さんがヤッさんに問うた。

月曜日、ラスベガスで銃の乱射事件が起こった。野外コンサートの会場に向かいのホテルの三十二階の部屋から無差別に銃を乱射して五十九人の死者と五〇〇人以上のけが人がでたアメリカ最大の銃乱射事件だった。

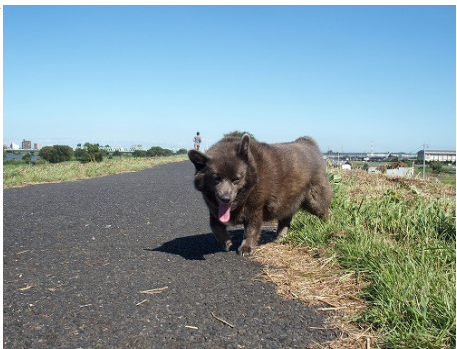
「オレは銃は持たなかったなあ」

ヤッさんは仕事でアメリカに駐在していた経験があるので舟頭さんが聞いたわけだ。もつともアメリカとはいってもラスベガスとは反対のノースカロライナ州で、比較的、治安のいい場所だったので銃は必要なかったそう。

「でも大変だよなあ。たとえば銀座で腰に刀をさして歩いているようなも

今週のクマ

→久しぶりの快晴。クマは江戸川の堤防の上にあがって満足げ。



→スイセンの芽が出てきた。これをニラと間違えて食べる人がいるというから、にわかには信じられない。これはれっきとしたスイセンだ。



のだものなあ。物騒なことだ」

そう私がいうと舟頭さんが、

「日本でそんなことをしたら、すぐに警察官がとんできて逮捕だよ」

日本は明治政府ができてすぐの明治九年に廃刀令がだされ、いつせいに刀が没収された。以降、刀を腰にさして歩く人はいなくなった。

「アメリカも銃規制をすればいいんだけどむずかしいんだろうねえ。なにしろ銃器メーカーから政治家に膨大な献金がされているから……」

ヤツさんによるとアメリカの政府はこのようなメーカーからの献金で成り立っているという。

そのあたりが日本とは政治システムが違っている。日本では廃刀令のおかげで刀を持ってなくなったが、もともと銃社会ではなかったので猟師は別として、一般の人が銃を持つことはなかった。

「考えようによったらアメリカのほうが野蛮だよなあ」

私がそういえば、ヤツさんが、

「なにしろ銃砲店に行けば子ども用のライフル銃を売ってるんだから」

我々は日本に産まれたことを感謝だ。